



新型コロナウイルス感染症対策



区役所に設置された品川区PCR検査センター（完全予約制）。写真はメディアに公開されたデモンストレーション（5月8日午後）

区民の声が区政を動かす力に PCR検査センター設置・検査基準の改 善・福祉施設への支援等が実現しました

コロナ対策 第二次補正が成立

コロナ禍の中、多くの方が不安な日々を過ごしているのではないでしようか。

また医療従事者など直面する事態に必死に、取り組んでいる方々に心から敬意を表します。

品川区議会ではコロナ対策予算を計上するため、これまでに3月末には第一次補正を全会一致で採決し、5月12日には第二次補正を同じく全会一致で採決しました。

二次補正の主な内容は、

一人10万円の給付金の他、高齢者・障害者事業所の従事者支援、休園に伴う認証保育園の保護者及び事業者支援、PCR検査センター設置（写真）、自宅療養者対策（酸素測定機等）、中小企業融資あつせん対象拡大、小中学校休校中の昼食代支給（就学援助世帯）等が盛り込まれました。

総額は442億円と大型補正で、財源は国より給付金411億円、都支出2億円、品川区は積立基金を21億円取り崩し、財源としました。

区民の声を集め、政策提言 日本共産党

共産党は電話で住民のお困りごとや状況を伺うとあわせ、医師会や建設組合、障害者団体、特養ホーム、ヘルパーステーション、学校など区内の各団体や事業所等から要望を聞き取りました。

「PCR検査を希望しても、基準が厳しく検査ができない」との住民の声や福祉事業所からは



4月30日に第二次要望を区に提出

「自分も感染するのではと不安。マスクの備蓄が底を尽きそう」「デイサービス利用者が減り、経営が苦しい」などの声も。工務店など建設組合からは「大規模建設が止まり、長期の休業状態。給与や家賃の支払いが厳しい」「休憩所が狭いなど、現場は対策が困難」などの声も寄せられました。

こうした現場の声を集め4月10日と30日に、要望書を品川区長に提出。区補正予算に反映され、国ではPCR検査基準も一部改善されました。

区民の声がコロナ対策を充実させています。ご意見・ご要望お寄せ下さい。なかつか亮

ストップ羽田新ルート 品川区議14名が超党派で連名アピール

ゴォーとの轟音、すさまじい圧迫感に、羽田新ルートへの反対の声が高まっています。さらに、コロナ禍で航空機も大幅減便、自宅では在宅勤務をする方も増える中、「こんな時でも、都心ルートを強行するのか」と怒りの声が上がっています。こうした中、14人の品川区議（共、ネ、立、都つ、N、無所属）が、右→の連名ポスターを製作し、街に張り出しました。品川区議会の共闘が広がりは、区政を動かし、低空飛行を止める力になります。住民の皆様とあわせ、国会議員・都議とも連携し、がんばります。



なかつか亮 1975年品川区西大井生まれ/44歳/03年に27歳で初当選し、5つの常任委員会をはじめ、予算・決算委員会副委員長や行革特別委員会委員長を経験/区議5期/党区議団幹事長/家族：妻/29号線認可取消裁判原告/趣味：料理、旅行